

2018年度学生支援プロジェクト事業成果報告書

ココカラ未来の学校 2018～子ども×若者サミット+子どもたちのお仕事体験～

代表者 別所 遥 (教育学部学校教育教員養成課程4年)

1. 目的と概要

本プロジェクトである「ココカラ未来の学校」では、地元のこどもたちに、「今ある環境にばかり目を向けるのではなく社会の広い世界を知り、自分の可能性を広げ、未来に夢や希望を持って欲しい。こどもたちの心に夢を！」そんな思いから始まった学生が企画運営するプロジェクトです。本プロジェクトは「こども×若者サミット」と4度目の「ココカラ通信社」を通して、こどもたちが「未来のまちづくり」というテーマで大人と一緒にサミットを行い、商店街でのお仕事体験を行いながら、自分の可能性について考えていきます。実施概要は以下の通りです。

名称	こども×若者まちづくりサミット in 高松	ココカラ通信社～みんなのまちでお仕事体験隊～
開催日時	2018年7月1日(日)	2018年11月17・18日(土・日)
開催時間	13:00～16:30 受付12:30～	17日(1日目)13:00～16:30、 18日(2日目)11:30～16:30
開催場所	香川大学オーリースクエア多目的ホール	17日(1日目)丸亀町カルチャールーム1.2 18日(2日目) 瓦町 FLAG8 階市民活動センター会議室
開催内容	第1部 現在×未来のお仕事ワークショップ 第2部 まちづくりサミット 【こども】 未来のまちマップ作成 【大人】 まちづくりプロアクションカフェ	1日目 北部商店街でお仕事体験&インタビュー 2日目 南部商店街でお仕事を企画運営
主催	学生団体 cocokara	学生団体 cocokara
協力	地域の家ココカラハウス、はたらくしろくま、 マチカド・プラザ、Re:action project	地域の家ココカラハウス、 高松丸亀町商店街振興組合、 高松兵庫町商店街振興組合、 株式会社高松南部3町商店街プロジェクト
後援	公益財団法人砂原児童基金、 青少年育成支援コーディネーターの会、 一般社団法人楽藝賞、KSB 瀬戸内海放送、 かえっこ商店街実行委員会、あしたプロジェクト、	公益財団法人砂原児童基金、 KSB 瀬戸内海放送、 一般社団法人楽藝賞

	株式会社スマイルメーカーズ、 一般社団法人 hito. toco	
参加人数	幼児 3 名 小学生 25 名 大学生 27 名 社会人 52 名 計 107 名	17 日：小学生 22 名、大学生 16 名 計 38 名 18 日：小学生 19 名、大学生 10 名 計 29 名
メディア掲載等	・ KSB 瀬戸内海放送 7 月 1 日夕方ニュース ・ 読売新聞 7 月 2 日朝刊	・ 毎日新聞 11 月 18 日朝刊 ・ 環境省四国パートナーシップオフィス web ページ「四国のすごい」 記事掲載

2. 実施期間（実施日）

平成 30 年 7 月 1 日から 平成 30 年 11 月 18 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業の主な成果として、「こども×若者まちづくりサミット in 高松」と「ココカラ通信社」を挙げることができます。

まず「こども×若者まちづくりサミット in 高松」では、小学生や大学生、社会人で、演劇やワークショップを行いながら未来のまちづくりについて考えました。第 1 部では、参加者全員で現在と未来の仕事をテーマにした演劇を見ながら、どんな仕事未来には残っているのかということについて考えました。将来ロボットに代替される職業やされない職業を考えると、参加者からは驚きの声があがっていました。第 2 部では、小中学生と大学生社会人にわかれ、それぞれワークショップを行いました。こどもたちのワークショップは「未来のまちにあったらいいもの」をテーマにして行いました。初めに「自分の好きなもの」や「将来のゆめ」をテーマにこどもたち個人でマンダラチャートを書き、それを基にグループごとに「未来のまちの様子」をペンや色紙などを使って表現しました。当日のアンケート結果より、90%以上のこどもたちが、ワークショップに満足をしていたこと、さらに、未来に希望や期待をもっていました。演劇を通して未来世界をイメージしたことで、こどもたち一人一人が自分の気持ちと向き合い、作品に自分を表現していました。大学生社会人のワークショップでは、メインファシリテーターを、京都より地域公共政策士の佐野光平さん、上野敏寛さんに行っていただきました。参加者には募集の段階で興味のある分野を決めていただき、それぞれ 5 人ほどのグループに分かれ、未来の地域課題をテーマにしたプロアクションカフェを行いました。アンケートより、このプロアクションカフェはほとんどの参加者にとってまちづくりについて考えるきっかけになったようでした。大学生は多様な年齢層の方々と対話をしたことによって、自分自身の視野が広がったこと、地域で活躍できる人材になりたいというような感想を持っていました。また社会人の方々からは、新たな地域課題を考えるきっかけになったということ、さらに、このようなイベントを学生が行うことに対して、地域活性化につながると温かい意見もいただきました。よって、本イベントは、社会の様子が日々移り変わっていく予測困難な時代の中で、子どもや若者が未来のあるべき姿から逆算し、自分自身のキャリアをデザインする

きっかけになったと考えることができます。



参加者全員で



子どもたちのワークショップの様子



大学生と社会人でプロアクションカフェ



全体発表の様子

次に「ココカラ通信社」では、小学生が地域の現状を知り、「働く」ということについて実践を通して考えました。1日目にはレクリエーションや名刺交換体験の後、北部商店街にて、子どもたちが希望する職種のコースに分かれ、お仕事体験やインタビューを行いました。コースは①まちづくりコース・②ものづくりコース・③人と人をつなげる・④新聞記者コースの4つのコースを設置しました。①まちづくりコースの子どもたちは、高松北警察署等でお話を聞きました。②ものづくりコースは、とんかつひがさ様などにて、食品を作ることにについて学びました。③人と人をつなげるコースは、フルーツ YAMANE 様などにて、接客・サービス業について学びました。④新聞記者コースの子どもたちは、株式会社スミダ文具店さま等にインタビューを行い、2日目の新聞作成に向けて、熱心に質問をしていました。2日目はそのコースごとに、南部商店街にてお仕事を企画運営しました。①まちづくりコースの子どもたちは、キッズ警察となり、事前にご協力をいただけることになっていたお店に安全確認の挨拶を行いながら、商店街をパトロールしました。②ものづくり、③人と人をつなげるコースの子どもたちは、常磐街商店街のフリースペース、マチカド・プラザにて、キッズ観光案内所を運営しました。店内には、一日目にインタビューをしたお店の魅力を伝えるポスターやチラシを置き、④新聞記者コースの子どもたちが製作したキッズ新聞などを配布しました。参加者アンケートより、多くの子どもたち（72%）がお仕事体験をしたことによって、働くことに期待を膨らませていることがわかりました。楽しみではない（24%）という子どもたちにおいても自由記述の欄には、仕事

の大変さや苦勞がわかったと学んでいました。さらに、ほぼ全員の子どもたちが「また商店街に来たい」（96%）と回答しており、自分たちが育ってきた地域への愛着を持っていることがわかりました。また、保護者の方々からも「子どもたちの成長を感じた。」というような意見を多数いただき、ご満足いただきました。大学生スタッフからは、子どもたちの関わりの中で学んだことや、地域の新たな魅力について気づいたことなどをお互いに話し合う姿が見られました。よって、本イベントは子どもたちが商店街でのお仕事体験を通して、「働く」ということだけではなく、自分自身の可能性や地域の未来についても考える機会になったと考えることができます。



参加者全員で



お仕事体験の様子



キッズ警察となり、商店街をパトロール



インタビューの様子

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、本学への影響は多大でした。参加した大学生が、地域活動に継続的に参加することを通して、地域の仕事や自分自身のキャリアを考える機会をつくることができました。このような本学の学生が香川県と真剣に向き合い、活躍する人材になると考えます。そして、本プロジェクトは多くのメディアに取り上げられ、私たちの活動や本学が地域に根差した学生中心の大学であるということを地域の方々には知っていただくことができました。本学が未来を担う若者の人材育成の場になっているというようなイメージの向上につながったと思います。

また、地域に与えた影響としては、本学と高松商店街を中心に活動したことによって、本学を軸とした地域活性化を実現することができました。若者が県外に流出していく中で、子どもたちが幼い頃から地域と関わるきっかけをつくり、生まれ育った地に愛着を持つ機会を作ることができました。さらに多様な世代の人々が、対話の場を通して、地域課題に

ついて多角的な角度で物事を捉えたり、未来に向けてお互いを尊重し合いながら、自分自身のキャリアをデザインについて振り返ったりすることができました。本事業で行った地域での若者のキャリア教育事業が香川県の地域課題を解決する糸口になったと考えることができます。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本事業を通して、一つのイベントを計画的に行っていく大変さや、地域の方々に受け入れていただくための準備や配慮の大切さを学びました。商店街の方々には会場を無料で貸し出していただいたり、温かいお声がけをいただいたりするなど、私たち若者に期待をしてくださっている思いも感じました。そのようなご期待に応えるために、地域の中で活動をする際には挨拶やマナー等、最善の注意を払うように心がけました。

また、学外の活動に取り組むことによって、改めて地域ならではの温かさに触れることができました。そして私たちが生まれ育った愛着のある香川県の課題について多様な視点から考えることができ、将来香川県で「働く」ことを目指すようになりました。将来生きていく上で、「生活をより良いものにするために何が必要なのか」、いつも自分自身に問い、地域と共に切磋琢磨することができるような人物を目指したいです。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

まず反省点としては、イベントの参加者を募るにあたり、参加者の方々には一度前もって連絡を取るなどの配慮を行うべきでした。お子様をお預かりする上で、このようなきめ細やかな対応が信頼につながると思います。

次に私たちの今後の展望としては、これからも若者が地域と関わるきっかけになるようなイベントを企画運営すること、大学生が自分の学びを学外で実践していけるような事業を展開していきます。

最後になりましたが、本学には、本学生の夢応援チャレンジプロジェクトにて多くのご支援をいただきました。お世話になりました、本学教授の方々、学生生活支援センター、教育学部学務系の職員の方々、さらに地域の方々に、心より感謝を申し上げます。

7. 実施メンバー

代表者 別所 遥（教育学部3年）

構成員 後藤田真緒（教育学部3年）

西森 祥晃（工学部4年）

藤澤 淳也（工学部4年）

高谷 美沙（教育学部2年）

辻 愛美（経済学部4年）

徳村 秀八（工学部4年）

田中満菜美（経済学部3年）

三村南津子（教育学部2年）

8. 執行経費内訳書

執行経費（品目等）	金額(円)	備 考
【ココカラ通信社】 ・ 消耗品（文房具等） ・ チラシ代 ・ 報告書代 ・ 会場費 ・ 名刺製作用ソフト ・ 会議・イベント当日湯茶 ・ イベント保険料 2日分	73,463 6,000 50,967 9,600 8,748 4,432 2,800	模造紙, 画用紙, 水彩マーカー 等 (株) 美巧社 (株) 美巧社 18日: 瓦町FLAG市民活動センター会議室 ラベルマイティプレミアム/ (株) 成豊堂 香川大学生生活協同組合 ￥28×50人 2日分
合 計	156,000	